

- PPEは、使用ごとに行う通常の点検に加えて、定期的に適任者による詳細点検を受ける必要があります。ペツルは製品の使用期間を通し、12ヵ月ごとの点検および特殊な状況での使用後の点検を行うことをお勧めします。
 - PPEの点検は、メーカー指定の点検方法に従って行ってください。
- 点検に関する資料はペツルのウェブサイトPETZL.COMからダウンロードできます。

警告: 使用頻度によっては、より頻繁に個人保護用具(PPE)を点検する必要があります。

スポーツハーネス

1. 製品履歴の把握

異常な劣化が認められるPPEは、詳細点検を受けるまで隔離する必要があります。

ユーザーは以下の事を行う必要があります:

- 使用状況に関する正確な情報を記録する
- PPEに対して生じた特殊な状況を記録する

(例: 用具の落下、墜落を止めた、極端な高/低温下での使用または保管、メーカー施設外での改造等)

2. 予備的観察

個別番号とCEマークが付いていることおよび判読できることを確認してください。

備考: 製品記載の個別番号のコード体系は変更されています。コード体系は2種類あります。それぞれのコード体系は以下を参照してください。

コード A:

00 000 AA 0000

製造年
製造日
検査担当
識別番号

コード B:

00 A 0000000 000

製造年
製造月
製造番号
識別番号

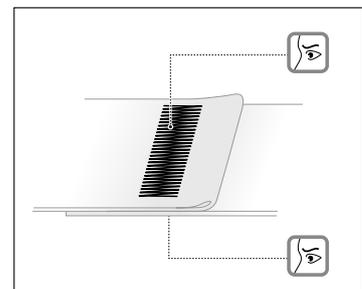
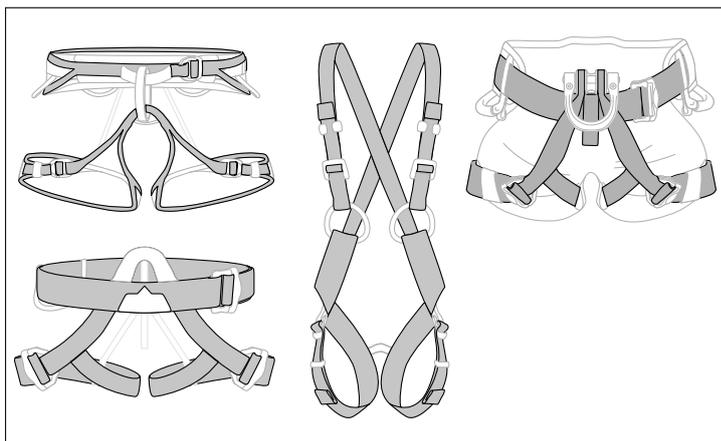
耐用年数が過ぎていることを確認してください。

新しい状態にある同一製品と比較して、改造が施されていないことおよびパーツが欠損していないことを確認してください。

3. ストラップの状態の確認

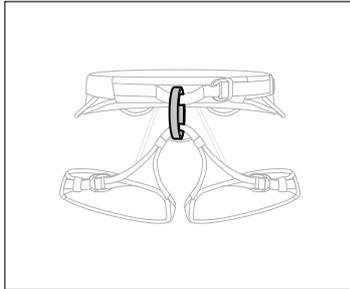
- 使用や熱、化学物質との接触による切れ目や膨張、損傷や摩耗がないことを確認してください。ウエストベルトのストラップ、バイアステープ、レッグストラップおよびショルダーストラップ(あれば)の状態を確認してください。バックルやプロテクターで隠れている箇所も点検してください。

- 安全に関わる縫製の状態を両面について確認してください。繊維糸にゆるみ、摩耗、または切れ目がないことを確認してください。安全に関わる縫製は、ウェビングとは異なるカラーで識別できるようになっています。

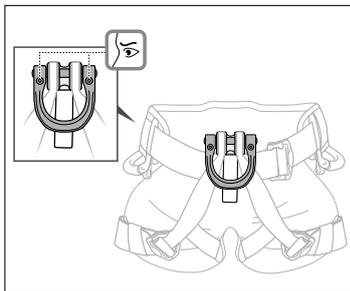


4. タイインポイントとビレイループの点検

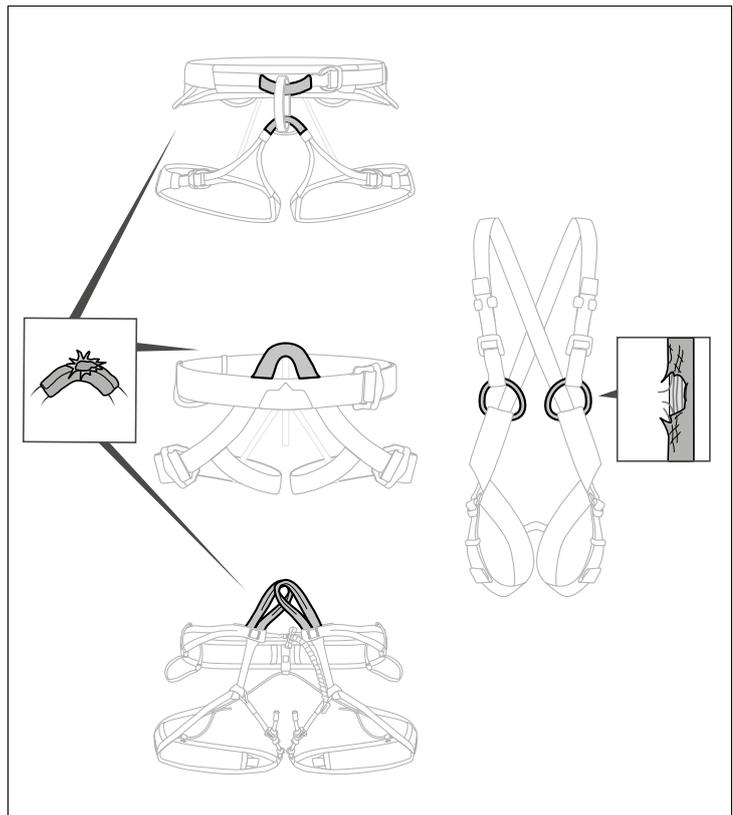
- ビレイループに使用による、または熱や化学薬品との接触等による切れ目や摩耗、膨張または損傷がないことを確認してください。



- ゲート付きアタッチメントポイントにスクリーが付いており、かつ適切に締められていることを確認してください。変形、ひび、傷、摩耗および腐食がないことを確認してください。



- タイインポイントの保護用のウェビングの状態を確認してください。使用や熱、化学物質との接触による切れ目や摩耗、膨張、損傷がないことを確認してください。タイインポイントの保護用のウェビングに摩耗が見られる場合(穴、縫製糸の切れ、ウェビングのほつれ)製品を廃棄してください。特定のハーネス(例: 2018年までに販売された『シンバ』『ルナ』『セレナ』『アジャマ』『サマ』)には、下側のタイインポイントに摩耗のインジケータがあります。インジケータが見えている場合、ハーネスを廃棄してください。



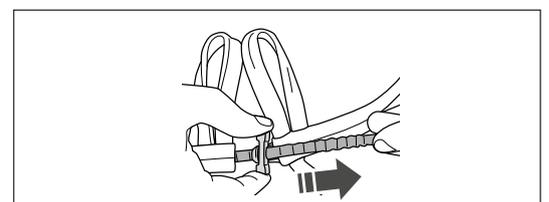
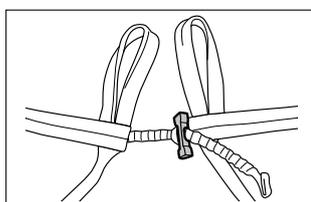
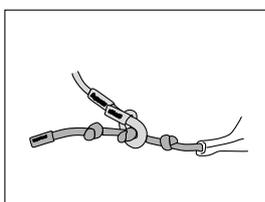
5. 調節バックルの状態の確認



- ハーネスの取扱説明書を参照してください。
- 調節バックルの状態(変形、ひび、傷、摩耗、腐食等がないこと)を確認してください。
- ストラップがねじれることなく適切に通っていることを確認してください。
- バックルが正常に機能することを確認してください。

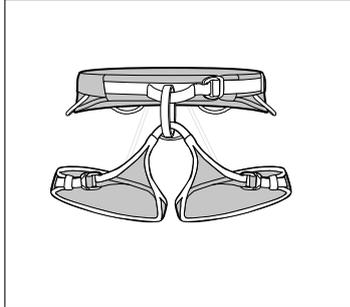
6. 『フライ』の特例

- 調節用ノットがあること、およびレグループ調節用コードの状態を確認してください。
- 使用や熱、化学物質との接触による切れ目や摩耗、膨張、損傷がないことを確認してください。

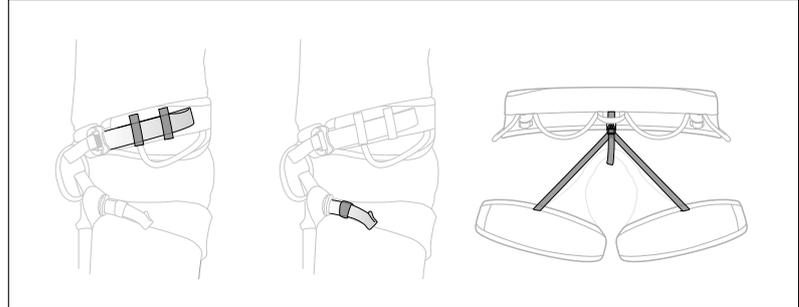


- ウエストベルト調節用留め具および伸縮性ストラップが適切に機能することを確認してください。

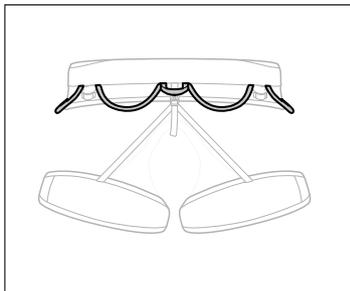
- ウエスト、レッグのフォームパッドの状態を確認してください(切れ目、摩耗、裂け等)。



- Check the condition of the elastic keepers and leg loop elastic bands (cuts, wear, tears...).



- Check the condition of the equipment loops (cuts, wear, tears...).



8. Examples of harnesses that are worn out, or that should be retired

- Discoloration



- Elastic band coming unstitched



- Damaged elastic



- Worn belay loop and tie-in point



- Worn belay loop and tie-in point



- Damaged safety stitching



• Worn tie-in point



• Worn tie-in point



• Visible wear indicator



• Marks on the webbing



• Unstitched hem



• Damaged webbing



• Cut hem



• Torn webbing



• Traces of paint



- Damaged buckle retaining strap



- Corrosion



- Corrosion



-
- Broken male buckle

